

令和 8 年度 国 語 (01コア・03プラス・05プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題13ページです。別に、マークによる解答用紙~~マーク~~、記述による解答用紙~~記述~~各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙~~マーク~~・~~記述~~をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙~~マーク~~の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙~~マーク~~はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙~~記述~~は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	0	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

問(三)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	
①	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	①
②	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	②
③	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	③

問(四)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	
ア	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	ア
イ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	イ
ウ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	ウ
エ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	エ

問(七)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(八)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(一)

	1	2	3	4
A	①	②	③	④
B	①	②	③	④
C	①	②	③	④

問(二)

	1	2	3	4	5	6	7	8	
i	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	i
ii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	ii
iii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	iii

問(三)

	1	2	3	4
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④

問(五)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(六)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(七)

1	2	3	4	5	6
①	②	③	④	⑤	⑥

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

問(三)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	
①	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	①
②	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	②
③	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	③

問(四)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	
ア	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	ア
イ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	イ
ウ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	ウ
エ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	エ

問(七)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(八)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(一)

	1	2	3	4
A	①	②	③	④
B	①	②	③	④
C	①	②	③	④

問(二)

	1	2	3	4	5	6	7	8	
i	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	i
ii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	ii
iii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	iii

問(三)

	1	2	3	4
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④

問(五)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(六)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(七)

1	2	3	4	5	6
①	②	③	④	⑤	⑥

問題は次のページより始まります。

— 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。(配点六十五点)

「文化的伝統」などを盾にして、(特定の)動物を食べる習慣の継続を主張したい場合を考えてみましょう。このとき

ア な路線としては、批判者側が指摘する「残酷さ」を多少なり認めて、「たしかに少々残酷かもしれないが、¹(トウガイ産業従事者の保護などの)しかたない事情がある」などというかたちで、肉食をなんらかの「必要悪」とする方針になってくるでしょう。しかし、この路線で議論に臨もうという場合、少なくとも倫理的な面では撤退戦の一 **P** をたどることになりそうです。

というのも、最初の一線を譲ってしまえば、ではどうすれば「悪」(残酷さ)の度合いを減らせるのか策を **Q** じたり、そもそも「必要」の度合いを再評価したり、といったかたちで譲歩していくことになるだろうからです。そして、じつさいに現実の動物食や毛皮の利用などの是非をめぐる動物倫理にかかわる国際的議論の展開は、おおむねこうしたルートをたどっているといつてよいのではないのでしょうか。

程度の差はあれ、ひとたび動物食が「残酷である」ことが認められはじめた社会では、遅かれ早かれ、その残酷さはなるべく低減したほうがよいという規範がはたらき、じつさいにその方向へと習慣が変わっていきます。それは「だって、かわいそうじゃない」「肉食、気持ち悪いからムリ」という——広い意味で——身体的・生理的な反発ですから、理論的に説得して以前の習慣に戻るようにながすことはできないからです。

こうしてみると、シユクラーの掲げる「なによりまず残酷さを低減せよ」とは、一見するとよりましな社会をめざす控えめな理念に思えますが、じつはとても強い原理です。そして、この「残酷さ」の身体感覚に訴える戦略は、その強さゆえに、シユクラー自身は政治哲学者として暗黙のうちに引いていた、人間と動物とのあいだのなんらかの理論的な「線引き」さえをも **イ** 化しうるようなものなのです。

動物食や毛皮利用などの擁護を試みる主張の検討に戻りましょう。なんらかの「残酷さ」を認めてしまうと、あとは撤退戦に

なるだろうという見通しを示しました。では別のルートとして、最初から「残酷さ」をいっさい認めない、という路線かどうか。さきほど確認したように、「残酷さ」の訴えは、議論を通じての説得というよりも感情移入を通じての共感として効果を発揮します。そのため、文化集団としての公式見解がどうあれ、言論や報道の自由が認められる社会においては、その構成員の全員が自分たちに届いた「残酷さ」の訴えにまったく影響されないということは考えづらいでしょう。

そうすると、こうした強力な訴えへの対抗戦略としては、たとえば「文化的な侵略」といったレトリックをもちいて「外部」からの批判への反発を煽り、内部集団の結束を高めるような路線があるでしょう。じつさに動物倫理をはじめ「西欧の価値観」にもとづいて、他国の文化的伝統を破壊しようとしている」とする反発がみられることは珍しくありません。日本においても、たとえば鯨肉を食べる風習への批判に対して、このタイプの反発があったことは記憶に新しいかと思います。

肉食などのトピックについてであれば、残酷さの感覚は「文化によってそれぞれ」という反発に共感するひとも少なくはないかもしれません。しかし、このタイプの反発が成立^Aがたいことは、既にシサ²しているとおりです。ただし動物倫理の場合には——シクラー自身も暗黙のうちにおこなっているように——人間と動物とのあいだには線引きが可能だとする直観をもって、この線引き感覚の文化相対性に訴えるルートは残されるかもしれません。そうだとすると、議論の余地なくわたしたちと同じ人間に対して行使される残酷さについては、同じ論法は使えません。

たとえば具体的な世界史的事態として、二〇二二年後半から進行しているアメリカ軍撤退（敗退）後のアフガニスタンにおいてふたたび統治権力に返り咲いたタリバン政権における、とりわけ女性をはじめとした市民への^①的な抑圧、残酷な蹂躪^{じゅうりゅう}について、わたしたちはどう考えるべきでしょうか。あるいは、二〇二二年二月末、トツジョ³として隣国ウクライナに武力による侵略を開始したロシアによる筆^Rにつくしがたい蛮行について、どのように反応すればよいのでしょうか。

こうしたケースであっても、たとえば「そもそもアメリカが仕掛けたアフガン戦争こそ、帝国主義的なボウキヨ⁴であり、^②的な国家建設を『善』として押しつけたことじたいが文化的な侵略だった。本来の部族連合社会とイスラーム統治による秩序が回復することは、自治の本来の^ウであって、部外者が批判・介入すべきではない」というような論調は存在

するでしょう。後者のロシアによるウクライナ侵略に際しても、少なくとも論者たちが「NATOの挑発」や「アメリカ帝国主義」のような語彙をもちいてロシアの一方的な侵略戦争を擁護ないし合理化するような言説を展開していました。

しかし理屈の次元はさておき、現実に起きている個別の残酷きわまりない事案について、被害者や犠牲者の存在を知り、その状況を③的にであれ見聞きしたとき、上記のごとき——結果的に、抑圧の構造や力による蹂躪を追認ないし傍観することになる——^B理性的な言説をそのまま支持することは、やはりできないでしょう。

シクラー自身のことばを借りれば、つぎのようにいえます。

「残酷さの最小化を掲げる」恐怖に^{たいじ}対峙するリベリズムについて、その方針があまりに「西洋的」で、あまりに抽象的であるなどと言って拒絶するような類の⁵ガンメイな相対主義は、きわめて^{のんき}呑気で、きわめて安易に現実世界のおぞましい恐怖を忘れてしまったため、とても信じるに値するものではない。

文化についての相対主義的な見方は、たしかに各文化を尊重するという観点で一定の重要性があります。リベリズムの基本として、個々人単位での「干渉されない自由」を「消極的自由」ととらえる考え方がありますが、同じように文化集団ごとの単位でもそうした自由を認め、異なる価値観が共存することをめざそうというのは、そうわるい響きではありません。

しかし、そうした「個人」と「文化集団」とを置き換えた類推がなりたつためには、そもそも集団の構成員が自分たちの文化単位での習俗・慣行について、——個人の習慣と同様に——自ら決定している（と思える）ような仕組みがなければいけません。^Cそして、ほとんどの場合に「伝統」の名のもとで営まれる社会システムには、多数派に有利な^{いやあう}かたちで否応なく被抑圧的な立場を強いられている個人・集団が存在するでしょう。

まず、やや抽象的なレベルで指摘できるのは、こうした「強者と弱者」からなる構造を「文化」などによって^E化し

ようにするとき、それを声高に唱えるのは「強者」の側だということです。じつさいのところ、「力」の勾配による不遇や身体的・感情的な苦痛にさいなまれる「弱者」の側が、自身や周囲の身にふりそぐ「残酷さ」を低減することを望むであろうことは、実情や構造について知ることさえできれば、まちがいないはずというのがシュクラーの見解です。

ここでの「実情や構造について知る」という条件は、「報道の自由」など民主主義の基本をなす別の主要パーツの整備もふくめ、けっしてかんたんなものではありません。しかし、原理的な可能性としては、つねに構成員が自身の属する集団の規範や慣行について「異議申し立て」できることがリベラリズムの本懐です。そして、この基本原理に由来する体制の不安定さを許容していることじたい、グローバル単位の覇権主義としてリベラリズムをとらえる——あまりに「西洋的」であるという——批判がポイントを外しているといえる根拠になります。

もうひとつ、「あまりに抽象的である」という批判が残っています。私見では、シュクラーの「恐怖に対峙するリベラリズム」最大のポイントは、この批判に対しての応え方にあると思います。つまり、ここまでくり返したように「残酷さ」のような「悪」は、身体的・感性的なものであり、究極的には理論的な説明を受けつけないという点です。ゆえに上記のような抽象的で一般的な説明も可能ですが、シュクラーは、まずなによりも個別具体の「残酷さ」の現場に、それぞれのケースにおける力の不均衡のあり方と抑圧者―被抑圧者の関係性にこそ目を向けるようにうながしているのです。

シュクラーは、わたしたちの日常に絶えることのない「悪」に着目することで、「自由」や「正義」といった正しいことばが陥りがちな空転——抽象的で、具体的なケースで考えづらいこと——を避けようとしています。これはきわめて実地的な戦略です。D
というのも、おそらくはほとんどの場合において、残酷さにさらされた被害当事者は、それを説明する理論的なことばなどもないからです。

(注) シュクラー＝ラトヴィア出身の哲学者

(朱喜哲『フェアネス』を乗りこなす 正義の反対は別の正義か』による)

〔問題〕

(一) 傍線部1～5の片仮名を漢字に直して、解答欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕

(二) 空欄P～Rに入るもつとも適切な漢字一字を、それぞれ解答欄に記入しなさい。ただし、同じ漢字は入りません。〔解答用紙記述〕

(三) 空欄①～③に入るもつとも適切な語を、次のa～lの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの語は一箇所にしか入りません。〔解答用紙記述〕

a	建設	b	反抗	c	哲学	d	感覚	e	断片	f	遡行
g	保守	h	近代	i	主体	j	強権	k	恣意	l	人間

(四) 空欄ア～エに入るもつとも適切な語を、次のa～pの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの語は一箇所にしか入りません。〔解答用紙記述〕

a	正当	b	穩当	c	否定	d	悪用	e	反応	f	強引	g	挑戦	h	可視
i	欲望	j	趣旨	k	洗練	l	有利	m	無効	n	妥協	o	活性	p	差別

(五) 傍線部Aに「このタイプの反発が成立しがたい」とありますが、それはなぜですか。次の文は、本文の論旨を踏まえて、その理由を説明したものです。空欄Ⅰ～Ⅲに入るもつとも適切な箇所を、本文の中から指定の字数でそれぞれ一つ抜き出して解答欄に記入し、この文を完成させなさい（字数は句読点、記号、符号を含みます）。〔解答用紙記述〕

文化における

ⅠⅡ四字

の立場に立つて反論しても、動物食の残酷さへの批判は、

ⅡⅡ一字

とい

う形で社会に影響を与えるような、

ⅢⅡ一二字

性格のものだから。

(六) 傍線部Bに「理性的な言説をそのまま支持することは、やはりできないでしょう」とありますが、「理性的な言説」とはどのような言説ですか。次の文は本文の論旨を踏まえて、それを説明したものです。空欄に入るもつとも適切な箇所を、本文の中から指定の字数で抜き出して、この文を完成させなさい（字数は句読点、記号、符号を含みます）。〔解答用紙記述〕

西洋の価値観をもちだして人間への残酷な蹂躪を批判することは、自国に対する

ⅠⅡ六字

だと主張するよう

な言説。

(七) 傍線部Cに「ほとんどの場合に『伝統』の名のもとで営まれる社会システム」とありますが、それはどのような「社会」ですか。その説明としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙〕

- 1 近代的な価値観を絶対視せずに、古くからの習俗を墨守する少数派の存在が認められた社会。
- 2 多数派がみずから普通の存在と認識し、彼らにとつての常識を前提に維持されている社会。
- 3 構成員の一人ひとりが、みずからの意思を投票によって政治に反映することが許された社会。
- 4 干渉されない自由が広く認められ、自国の風土になじまない他国の文化を強制されない社会。
- 5 少数派が伝統的な地域社会に居場所を見つけることで、多数派と共存することができる社会。

(八) 傍線部Dに「これはきわめて実地的な戦略です」とありますが、なぜこのように指摘できるのですか。その理由としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙〕

- 1 民主主義の不安定さを念頭に、西洋的な価値観に固執せずに被害者を救済しようと努めるから。
- 2 人々の恐怖を煽る反社会的な存在を排除すべく、社会体制の整備という課題に挑んでいるから。
- 3 何を残酷と思うかは人それぞれなどと開き直らず、現場に立って悪の線引きを続けているから。
- 4 社会構造ではなく被害者個々の感情に着目することで、少数派の意見を説明しようとするから。
- 5 社会の中で抑圧されている少数派に注目し、個々の苦痛を彼らの代わりに訴えようとするから。

二 次の文章は、鎌倉時代の物語である『我が身にたどる姫君』の一場面です。自分の素性を知らない姫君は、音羽山おとわやまの麓で遠縁の尼上（尼君）に育てられています。ある吹雪の夜、関白の息子の権中納言は、雪が収まるのを待とうと尼上の家に立ち寄りしました。そして、再びこの尼上の家を訪ねたところ、琴を見事に弾く姫君の姿を垣間かいま見て心惹ひかれます。これらを踏まえ、次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。（配点三十五点）

奥の方かたより人来て、何といふにか、簾すだれうち下ろすままに人々も入りぬるは、いはむ方ぞなきや。「さても誰ばかりならむ、この尼上は子ありとも聞かざりしものを、故中納言亡くてもそこら久しうなりにしを、こはいづくなりし人ぞ」と思ふぞひたすら堪へがたき。

心まどひに、かうてはえやむまじけれど、ありし戸口こざまにたち出いでて、うち声こゑづくり給へば、宰相の君をぞ出だしたる。

「思ひかけざりし雪のまよひに、乱りがはしきさまにて出で侍りにしかしこまりも、いつしか聞こえさせむと思ひ給へしを、春の初め、何となき公事おほやけごとにまぎれ侍りにけるたいたいしさを、とがめさせ給はぬもかひなくなむ」などのたまへど、いたうものづつみする人にて、言ことつづけて聞こえやらす、ただ、「いと何かしききは、みづから聞こえさせ侍るべきを、乱り心地つねはよろしからずのみなりまさり侍るを、ためらひ侍るをかたはらいたく」とばかり、ほのかに伝へ聞こゆる息ざしもいとらうたげなるを、これアやありつるならむと、いとど心は移りはてて、「いでや、紫いのゆかりは浅からぬものところ思ひ給へ知るを、むげに数まへ思されぬは、くちをしき色にぞ侍りける。

X 武蔵野の古き跡ある道ならば通ふ心もあらましものを」
そこはかとなくうちなげき給へるも、人からはわりなくぞ聞きなさるる。

いかでかは通ひもなれむ武蔵野の古野ふるのの道も行方知らねば
など聞こゆるに、尼上、例の数珠じゆずの音、古代にて寄りおはするけはひすれば、いますこしＢよくかに聞こえなし給ふ。

おほかたの御物語も、いとこまかに聞こえかはし給ひつつ、ふけゆくまで出で給はず。さるべきついでつくり出でて、おぼつ

かなき御うへを、かけかけしき筋にはあらず、推し当てにたづね聞こえ給ふに、「あなわづらはしや、人よりことにはづかしき御あたりを」^②と思せど、なかなか^aかけさうびもて隠さむにあいなき筋なれば、ただ、「昔人の、思ひかけずかこつゆゑあるべき限^③にものせしⁱⁱを、背き捨てし山の奥には、心苦しう思ひわづらはれながら、その形見にと生^おほしたて侍りし」など、まことならぬことは、続きもはかばかしからずのたまひなすに、ましてよくたどり寄りにける武蔵野を、かこたれまさり給ふはてはては、ならはぬ心のあながちにあやしきをもうちかすめ、いたううちなげき給ⁱⁱⁱへるも、「こはよしなきわざかな。世隠れなからむものは知りながら、人目まれなる巖^{いはは}のなかを頼みけるよ。つひにはえ隠しはてざらむものゆゑ、あやしかるべきわざかな。我が身とて、その行方を確かに知らばや。ともかくも思ひ定むべき」など、ただうちはへいぶせき契りの行方ぞ、さすがに知らまほしかりける。

(『我が身にたどる姫君』による)

(注) 故中納言Ⅱ尼上の夫。権中納言の伯父。後出の「昔人」も同じ人物を指す。

宰相の君Ⅱ姫君に仕える女房。

思ひかけざりし……出で侍りにしⅡ吹雪の夜に立ち寄った時のことを指す。

かけかけしき筋Ⅱ好色めいた方面。

〔問題〕

(一) 傍線部 A ～ C の本文中の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ後の 1 ～ 4 の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 〕

A たいだいしさ

- 1 そっけなくすること
- 2 もってのほかのこと
- 3 しっかりしていること
- 4 どうにもならないこと

B すくよかに

- 1 あわただしい様子で
- 2 なまめかしい様子で
- 3 のんびりした様子で
- 4 きちんとした様子で

C つひにはえ隠しはてざらむ

- 1 結局は隠したままにできるにちがいない
- 2 ついに隠しきれなくなってしまったのだ
- 3 最後まで隠し通すことはできないだろう
- 4 隠せるところまでは隠し続けてしまおう

(二) 傍線部 i～iii の文法的説明としてもっとも適切なものを、次の 1～8の中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの選択肢は一箇所にしかりません。〔解答用紙 〕

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 完了の助動詞 | 2 推量の助動詞 | 3 過去の助動詞 | 4 尊敬の助動詞 |
| 5 動詞の一部 | 6 副助詞 | 7 係助詞の一部 | 8 終助詞の一部 |

(三) 傍線部 ①・②について、敬意の対象は誰ですか。もっとも適切なものを、次の 1～4の中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。同じ選択肢を二回使ってもかまいません。〔解答用紙 〕

- | | | | |
|--------|--------|------|------|
| 1 権中納言 | 2 宰相の君 | 3 尼上 | 4 姫君 |
|--------|--------|------|------|

(四) 傍線部 ①a の平仮名を漢字に直し、①b はその読みを平仮名の現代仮名遣いで、解答欄に記入しなさい。〔解答用紙 〕

(五) 傍線部 ア「これやありつるならむ」の説明としてもっとも適切なものを、次の 1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 〕

- 1 宰相の君とは過去に会ったことがあるような気がしている。
- 2 尼上と故中納言との娘が宰相の君なのだろうと理解している。
- 3 先ほど心惹かれた姫君よりも宰相の君の方に恋心を抱いている。
- 4 宰相の君のことを先ほど心惹かれた姫君であると思い込んでいる。

(六)

傍線部イ「紫のゆかり」とは、次の和歌に由来する表現です。これをふまえて、和歌Xの説明としてもっとも適切なものを、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙㍷〕

〔和歌〕紫の一本ゆゑに武蔵野の草はみながらあはれとぞみる（『古今和歌集』雑上・よみ人しらず）

1 一度でも言葉を交わしたからには以前から心が通じ合っているのと同じだろうと、強引に好意を押し付けようとしている。

2 自分たちが古くから縁のある親戚であるなら通じ合う心もあるだろうにと、親しくなりたい気持ちを伝えようとしている。

3 この山は先人たちが草を分けて通ってきた道だから行き来もたやすいはずなのにと、これまでの交流のなさを恨んでいる。

4 姫君が古くからこの草の深く生い茂る山に住んでいることは哀れであるとして、都へ移り住むことを勧めようとしている。

(七) 本文の内容と合致するものを、次の1～6の中から二つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、三つ以上マークした場合は0点とします。〔解答用紙^{マーク}〕

1 権中納言は姫君のことが気になったが、尼上は夫を亡くして長く、子がいるとも聞いていなかったので、何者なのか不思議に思っていた。

2 権中納言の対応に出た宰相の君はひどく引込み思案な性格であったが、失礼がないようにするため、努めてはきはきと受け答えをした。

3 尼上は宰相の君を介して、本来は自分が対応に出るべきであるが、体調が悪いために出られずにいることへの非礼をわびる言葉を伝えた。

4 姫君の素性について尋ねる権中納言に対して、尼上はすらすらと言葉を続けて嘘をつくことで、死んだ夫の隠し子であると信じ込ませた。

5 権中納言は姫君に恋心を抱きつつあったが、尼上の前ではほめかすこともしなかったので、思いが尼上にも気づかれることはなかった。

6 尼上は姫君を隠すのに山奥だからと油断していたことを後悔したが、自身も姫君の素性を知らないのだから、何もできないと開き直った。